

第5 A部会「教職員の専門性に関する課題」に参加して

大分県公立学校教頭会 事務局次長 長野 尊弘

(1 本目の発表)

若手教員を計画的・組織的に育成するための教頭の役割

—地域の協働体制を生かした取組を通して—

香川県善通寺市立筆岡小学校 藤田 佳代子 教頭

提言者の勤務する善通寺市10校では、教職員の年齢構成が、20代が全体の38%・30代が15%と、40歳以下の職員が全体の半数を超えている。ベテラン教員の大量退職に伴い、教職員の若返りが急激に進んでおり、「若手育成」が喫緊の課題となっている状況である。

このような状況で、「①若年教員の現状をまとめるとともに、若年教員の意識を探る。②若年教員育成における教頭の役割に焦点を当てた調査をもとに、若年教員育成の現状と課題を明らかにする。③若年教員の育成に向けた教頭の役割を教頭としての取組、学校としての取組、善通寺市としての取り組みから具体策を見いだす。」ことを狙いとした提言であった。

教頭としての具体的な取り組みが、①基本的なマナーの習得指導、②授業力向上へのアドバイス、③生徒指導力の向上指導、④危機管理意識の高揚、⑤メンタルヘルスケアの気遣い、学校としての取り組みが、①OJTを意識した適材適所の校務分掌配置（ミドルリーダーの育成）②若手対象のミニ研修、③働き方改革の意識化、善通寺市としての取り組みが、①学習教育指導者（外部指導者）の配置、②市若年教員研修会などの開催であり、その連絡・調整役が教頭であった。

(2 本目の発表)

教職員の資質向上にむけた教頭の役割

—「高砂市小中一貫教育」の取組を生かした道徳教育推進のあり方—

兵庫県高砂市立新井中学校 松本 光弘 教頭

提言者の勤務する高砂市では、平成26年度よりにおいて小中一貫教育が実施されており、平成30年度から各中学校ブロックの状況や実態に応じた「高砂市小中一貫教育」に取り組んでいる。また、道徳教育においても中学校区を核とした道徳教育実践研究の推進をしている。その中で教職員の資質向上に向けた教頭の役割についての提言であった。

教頭のかかわりとしては①道徳教育実践研究のサポート役、②連携校間の連絡調整役、③教頭会の中での取り組みの意見交換などであった。中学校文化と小学校文化の違いを乗り越えて橋渡し役をこなしていく教頭の役割を再認識した。